

平成26年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	川霧にはぐくまれる柿・めじろの里づくり事業
事業主体 (連絡先)	草尾柿組合 (代表 草尾柿組合長 竹内 勇)
事業区分	(6) オ その他地域の特色、個性を生かした産業振興、雇用拡大に資する事業
事業タイプ	ソフト・ハード
総事業費	1,911,939円 (うち支援金: 1,288,000円)

事業内容

荒廃農地を借り受け平種なし柿を植栽し、低樹木栽培により労力の軽減と荒廃農地の削減を図る。
また、既存の蜂谷柿を無駄にしないよう、村内から柿を集め高齢者でも作業しやすく、省力で安全な皮むき機を利用し高品質なころ柿づくりを行いました。
品質の安定したころ柿作りと新たな加工品作りにも取り組みました。



※1 自己評価 (事業実施率) 【 A 】

事業効果

先人が培ってきた伝統のころ柿栽培を復活し、高齢化が進む地域の活性化を図ります。未収穫の柿を減らすことにより、猿や鳥獣害等の被害を防ぐことができ、その他荒廃農地を利用することで農地保全にもつながりました。
また、村内全域から未収穫の蜂谷柿を提供してもらうことで、今年は13,000個のころ柿が作れ、収穫量の安定化ができ多くの商品化ができた。
保冷施設の整備により、商品の保存ができ長期間の販売につながる。
これにより、農作業の最盛期が過ぎたころからの作業であるため、農閑期の副業として拡大できる。

【目標・ねらい】

- 高齢者の雇用拡大
- 在来の柿の利用で6次産業化
- 荒廃農地の有効利用
- 副収入による地域の活性化

今後の取り組み

遊休荒廃地を活用した柿のほ場を拡大し、低樹木栽培方式の導入により高齢者でも安全に収穫を行うことと、高齢化のより管理できない柿のほ場を借り受け管理し、柿の確保を行います。
ころ柿の収穫量が増えてきたため、乾燥施設の増設が必要と湿気の対策に除湿機の導入により消費者のニーズに対応できるよう整備を進めます。

※2 自己評価 (事業効果) 【 A 】

※1 自己評価 (事業実施率) 欄は、「A」90%以上、「B」70~89%、「C」50~69%、「D」49%以下で示すこと。

※2 自己評価 (事業効果) 欄は、以下から選択のこと。

「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた

「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある